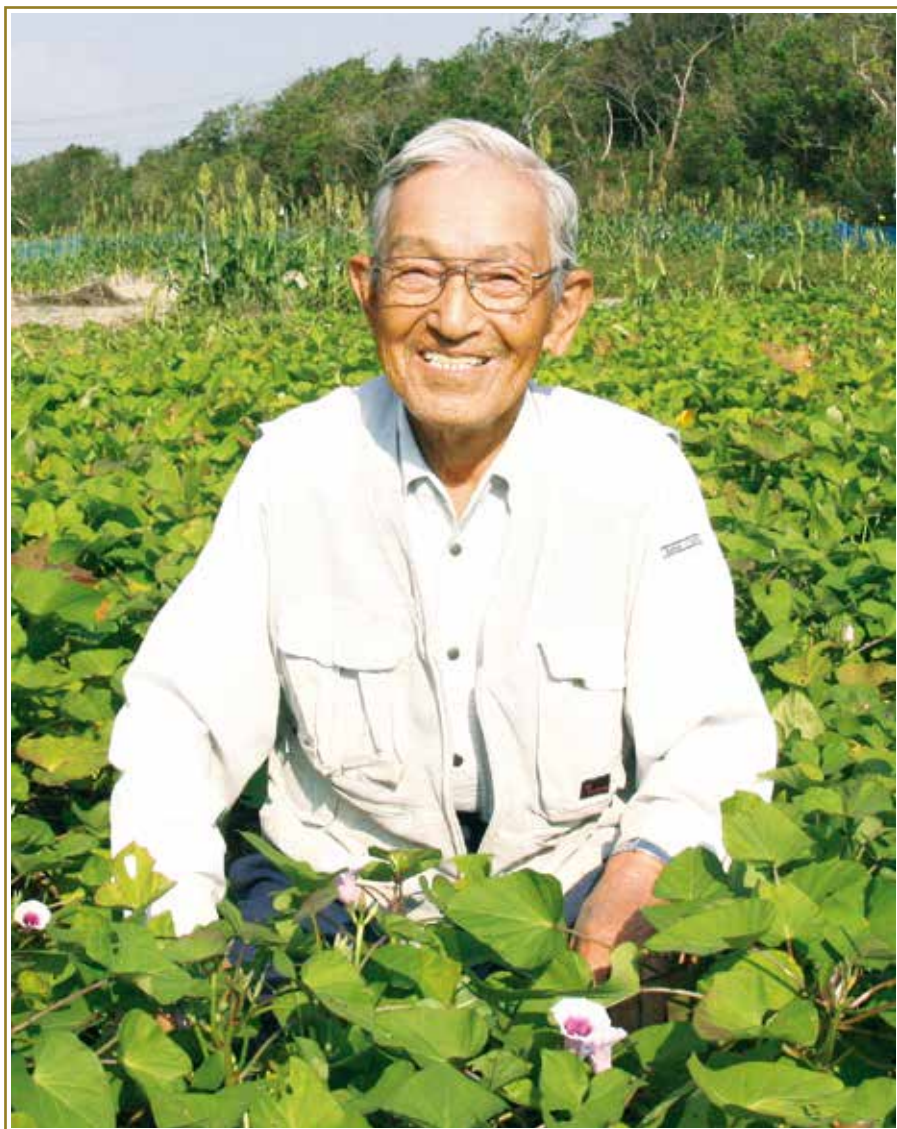




みんなの畑のおじいちゃん

おき
つぐよし
沖次由
さん



PROFILE おき つぐよし(79・門屋)
「農業は命あるものと付き合うことだと知ってほしい。また、地元の作物に興味を持ってもらいたい。健康にもいいので、ぜひ地元の作物を食べてほしい」と話す。

命の大切さを伝えたい
畑のおじいちゃんと呼ばれて

「今朝何を食べた？」畑に
来た子どもたちに沖さんがよ
く聞く質問だ。その質問を通
して「みんなは命あるものを
いただいて、そのおかげで大
きくなっているんだよ」と伝
えている。

沖さんが、高松幼稚園の農
業体験に携わり、すでに10年
以上がたつ。当初は、七ツ山
砂地観光農園で行っていた
が、片道約2^キの道のりが難
点だった。畑までの道のりで
体力を使い切ってしまう子ど
もたちのため、幼稚園に近い
畑を借りられないか考えた。
園の近くの耕作放棄地を借り
ることができ、耕作放棄地再
生利用交付金事業でその耕作
放棄地を畑にし、園の近くに
畑を整備することができた。

(塩原)、二俣梅太郎さん(門
屋)と一緒に畑の世話をして
いる。

「街中を歩いていると、子
どもたちに『畑のおじいちゃ
ん』と声をかけられる。それ
がすごくうれしい」と笑顔で
話してくれた。

畑で接した子どもたちは、
いつも畑の世話をしてくれる
沖さんのことをちゃんと覚え
ている。沖さんが幼稚園に行
くと膝に入ってくる子もい
る。畑で接した子どもの中
には、中学生になっても話しを
する子もいるという。子ども
たちにとって沖さんは、まさ
に「おじいちゃん」なのだ。

農業への理解を深めてほしい

沖さんは、幼稚園のほか、
門屋の市民農園などで農業に
理解を深めてもらおうと活動
している。「市民農園にまだ
空いた畑もあるので、こう
いった取り組みを知らない人
に知ってほしい」と語る。

また、こうした活動の一環
で、みそや切り干し作りの体
験も計画中とのこと。沖さん
の活動はまだまだ続く。